

石油ストーブの誤給油火災に注意！

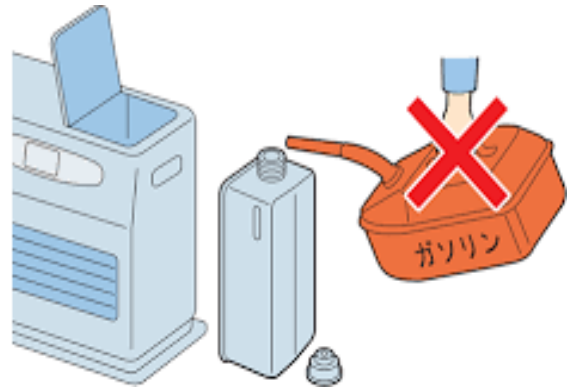
青森消防本部管内において石油ストーブに誤ってガソリンを入れて（誤給油）使用し火災になった事例が相次いでいます。

case1

ガソリンを灯油用のポリ容器に保管していたため、それを知らない家族が中身を灯油と思い込みガソリンを補給し出火した。

case2

石油ストーブの灯油を補給しようとしたが、途中で除雪機用のガソリンと同じ場所に保管していたため誤って、ガソリンを補給し出火した。



漏れたガソリンに引火した様子



ガソリンを入れ使用すると・・・

ガソリンを誤って石油ストーブに補給しても、燃焼が続き、しばらく異常に気付きません。しかし、しばらくすると揮発した蒸気によりカートリッジ内の圧力が上がり、突然ガソリンが漏れ出し、燃焼中の石油ストーブの火に引火し火災になり、一度ガソリンに火が付くと、消火が難しくなります。

誤給油火災を防ぐ3つのポイント

①ガソリンは専用容器で保管



金属製の専用容器（携行缶）

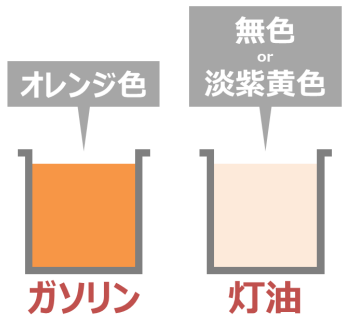
②油の保管場所を分ける



ガソリン

灯油

③色の確認



ガソリン

灯油

灯油用のポリ容器に入れ保管すると、灯油と思い込んで補給してしまいます。

異なる油種を近くで保管すると、思い違いで補給してしまいます。

灯油は無色又は淡紫黄色、ガソリンはオレンジ色をしています。